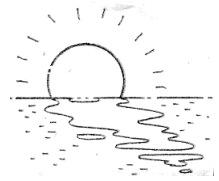


## 改歳の辰

いつもと同じ日が昇り  
いつもと同じ朝を迎える



いつもと同じでありながら、いつもと異なる、正月。

改歳のこの日は、一年の無事を祈り、この一年を楽しく、明るく過ごそうと誓う日でもあります。

◇ ◇ ◇

「心が荒れる」と書いて「慌あわただしい」と読みますが、いつの時代でも世の中は何かと気ぜわしいものです。

特に現代社会では、時々刻々と大量の情報*報*が我々のもとに押し寄せてきます。まさに、あわただしさの中での心の置きどころが問われている時代といえます。

そんな中であつて、*禪*では、  
「茶にあつたら 茶をのみなさい

御飯の時には 御飯をいただきなさい」と教えます。いたつてシンプルでありながら、真をついている言葉です。

お寺に貼られた伝導ポスターやお寺から配布される印刷物などの中に、よく、

「朝は合掌、昼は汗、夜は感謝で眠りましょう」と書いた文字を目にされた方もおられると思います。

自然の受け入れの中に積極的に人間が生きていくには、朝は「おはよう」、昼は「こんにちは」、夜は「おやすみ」の他に、「いただきます」「ごちそうさま」「いつてまいります」「ただいま」などといった、

節目となる一ツ一ツの言葉を大切にすることが一日のリズムにつながり、ストレスの緩和にもつながっていくことと思われまふ。天地自然のリズムの中に身をゆだね、この新しき年が、皆様方が無事で、楽しい日々であることを祈念する次第です。

沢山の物差し（尺度）

自分の大事にしている皿なり、茶碗なりがあるとします。

それを他人が割った時、私達の多くはその粗相をとがめて怒ります。

それが自分の愛する子であつたとしても、

「どうしてそんなに不注意なの？」とか、

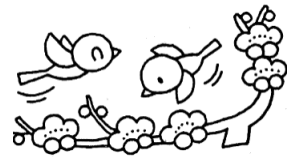
「大切にしていたのに・・・」

などと叱責やグチめいた言葉を、ひとこと言わずにはおられません。

「あつ、しまった」 「惜しいことをした」

と内心思つても、自分がそこなつたとしたら、他の人をとがめたようには、自分のことを責めることはありません。

このように同じことをしても、自分自身のことなら許せるけれど、他人のしたこととは許すことができない——こんなこと



が私達の日常の場にはいつぱいあります。

子供達が幼い時、わが家でもよく子供達は、たわいもないことが原因で泣いたり、怒つたりしました。

「○○ちゃんが、こう言った」「○○ちゃんがこんなことをした」・・・でもよくよく観察してみると、数時間前、数分前に又そう言つて他を責めた数分後には、自分もまた同じようなことを他の姉妹に言つたり、しているのです。

「自分の頭の上の蠅を追つてから・・・」とか「目くそ、鼻くそを笑うということと同じだよ」とか、家内は子供を叱る時、しよつ中言つていましたが、確かに私達は、自分には甘く他には厳しい二つの物差しを持っています。

しかしそれ以上に、夫や妻、わが子、しゅうとやしゅとめ、友人、他人、実の親などと、その相手によつて、その目盛りすら定

かでない、動く物差しを沢山もっています。

お互いの立場や都合という、  
はかりを持ち出してくれば、  
必然的にいがみやづれが出て  
くるものです。

仏の世界で、物事をはかる  
時の尺度は、天地自然のあり  
様を基準にしています。人間

のまなざし（立場や思い）は複雑で、気分  
によつて異なる価値やぐち、怒りなどの感  
情を、自身でコントロールすることはな  
なか出来ません。人間界での基準ではなく  
一休みし、一呼吸をした仏の世界から、か  
い間みることが大切なことなのでしょう。



一口伝導板

○地球のように 心も丸く  
さあ

○からスタートだ

○—なんだ こんなところに—

さがしものをさがすときほど  
なかなかみつからない

やつとみつかると

なんだこんな所にあつたのかと思う

なんだ

こんな所にあつたのかと思う ホントの

忘れ物

それは あなた自身です

なんだ・・・

こんな所にある のが あなたです



○美しいものを 美しいと思う

そのあなたの心が 美しい

○仏さまは見つめておられます

あなたのいのちを

## 小閑

この夏、外孫が遊びに来ていて、葉の上でじつとしていているテントウ虫をみつめました。

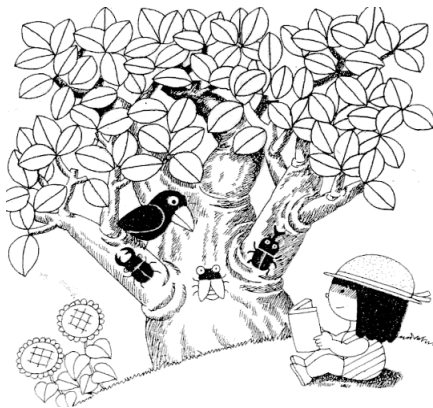
私は「ちつとも動かないネ。疲れちゃったのかしら」と話しかけた所、孫が、「バアバ、テントウ虫だつて、いつも動いていないヨ。何にもしない時だつてあるサ」と言うのです。

「そうだね、テントウ虫だつて、じつとしていている時があつても不思議じゃないヨネ」と答えたあと、何となく、生きているものは、たえず動いていることを、あたり前のように感じていた自分に気づきました。

心頭身体方丈は子供達が幼い時から、「身体を動かせ、頭を動かせ。それが無理なら心を動かせ。」と、お念仏のように言っていました。しかし、わが家の子供達は、ボンヤリ流れる雲をみていたり、自分の事

だけに目がいつて、なかなか体が動かない子ばかりでした。私は心配でした。でも今では、そんな子供達も各々に家庭をもち、それなりに自分らしく、すがすがしく生きています。

自分の周りに、ボンヤリと無為に過ごしているように思えるお子さんがいても、蝶にサナギの時期があるように、そんな無為の時を経ずには飛び立てないと考えることができたら、ゆつたりと、そんなお子さんに接することができるのではないでしょうかと、孫が言ったひとことから思わされたことでした。



(安藤百合子)

## お寺から

### 宝物展の開催

何十年もの間、蔵にしまわれておりました、文化財級の寺宝を、虫干しも兼ねて、十一月二十一日～二十三日まで、初の一般公開を致しました。

今回は、中世の小田原城主と対立した武将に関するもので、武家の盛衰や死者への供養にまつわる品々の展示となりました。

朝日新聞やポスト誌などの掲載効果もあって、三日間でおおよそ千名余の方々が観覧にみえ、歴史に興味をもつ方の多さに驚きました。

一点一点、写真を撮って記録に残し、保存状態を考慮しつつ、大切に後世の人々に伝えていきたいと思っています。



### ○ザル菊観賞

今年は異常気象の影響で、ザル菊の開花に、少々バラつきがあるとの心配もありましたが、十月末から十一月にかけて会員さんの愛情をたつぷりに受けて、見事にザル菊が咲き揃いました。（現在106名の会員様）講師の鈴木三郎邸のザル菊園を観た後に当寺まで足を伸ばして下さい方もふえ、なかなかの賑わいを見せました。

### ○庭口の造成

日本造園協会の研修の場として、当寺を使いたいとの申し出を受けました。

十月十五、十六日にかけて、裏庭入口の石積みが行なわれ、第二回目は二月中旬の予定を組んでおられるそうです。

おおよその構想を伺っているものの、出来映えを、楽しみにしています。遊歩道を盛り込んだ裏庭の完成が待たれます。